

咳嗽に対するニザチジン治療の有用性

滋賀医科大学総合診療部

松原英俊、西山順滋、田中努、三ツ浪健一

【目的】本邦では慢性咳嗽の原因としてGERDは希とされている。我々はPPI治療に反応する慢性咳嗽が相当数認められることを報告した。GERDは有効性が乏しいもののH2RAによる治療も可能である。慢性咳嗽に対するPPIの効果が胃酸抑制にあるのならH2RAによっても治療可能であると考えられ、慢性咳嗽に対しH2RAであるニザチジンの有効性につき検討した。

【方法】総合診療外来を受診し2週間以上の慢性咳嗽を有し、H2RA治療することにインフォームドコンセントをとれた13症例。受診時点で他の原因疾患が想定される症例、再受診が困難な症例は除外した。再診時に症状改善乏しい症例に関しては、患者の希望に応じ治療を変更した。症状経過を客観的に評価するため、既存の咳嗽日記に変更を加え新たな咳嗽日記を作成し、各受診毎に自己記載していただいた。治療はニザチジン300mg/日と生活指導を行った。

【成績】H2RA単独で改善ないし治癒した症例は8例。PPIに変更後改善を認めた症例は2例。改善なく脱落した症例が3例あった。治療無反応例は中等症の症例に限られた。

【結論】PPI治療に比べやや治療結果は劣るもののH2RA単独でも有効であり反応する患者が相当数いることがわかった。また咳嗽日記は症状経過を客観的に評価、解析する上で有用であった。